

北海道のMICEとおもてなし

旭川医科大学医師会
旭川医科大学 臨床検査医学講座

藤井 聡

日本政府観光局によると、国際会議協会の2017年統計で、日本の国際会議の開催件数は414件と過去最高で、アジア・太平洋地域で1位、世界7位だそうです。都市別の開催件数は、東京が101件でトップ、2位は京都(46件)、3位は名古屋(25件)で、4位になんと札幌(24件)が入り、大阪と福岡(各17件)をしのいでいます。さすがに大きな国際学会は東京、京都、横浜が中心ですが、地方都市での開催も増加傾向にあるようです。小生も6月末に札幌で500人程度の国際学会の大会長をさせていただきました。あまり身近にあるとありがたみはよく分からなかったのですが、北海道の自然、料理、スイーツなどは、アジア・太平洋地域からの学会参加者には大きな魅力であったようです。また、北海道の認知度が向上しているのは、自治体を挙げての国際会議誘致運動や受け入れ環境の充実が寄与しているためだと思います。

新しいことばの勉強もたくさんできました。MICEというのはマウスの複数形ではなく、会議(Meeting)、報奨旅行(Incentive tour)、学会(Convention)、展示(Exhibition)の頭文字を取った観光関連の造語でした。国際会議参加者は観光旅行者に比べ消費する金額が大きいそうで、MICEの誘致に国や自治体が力を入れるわけです。小生も少しは役に立てたかな?とっております。MICEによりインバウンド(外国人が日本を訪れる旅行)を増やすには、言語というスキルもさることながら、発言から異文化を理解し、多様性へ誠実に対応するといった国際理解が重要であると感じました。

日本人の多くは国内で人種的に多数派として生きているので、肌の色など身体の特徴、言語が異なる人に部外者のラベル付けをすることもあるといわれます。私も海外留学を経験する前はそうでした。しかし、自然と共生してきたアイヌ文化の存在や、おらかであり細かいことは気にしないともいわれる道民性は、MICEの誘致にもネガティブな面は少ないのかもしれませんが。国際医療や国際社会の医療に貢献する人材の育成にも適している土地柄と思われる。

今、日本は国をあげて東京2020オリンピック・パラリンピックの準備を進め、世界各国から訪れる人々をもてなそうと努力しています。見た目やさまざまな文化の違いに気を取られず、人間そのものをストレートに見つめる、そんな「おもてなし」の心を身に付ければ、北海道はより素晴らしい国際交流、国際医療を可能にするのではないのでしょうか。

Gentle Cesarean Section

札幌市医師会
勤医協札幌病院

林 泉

麻酔科のポリクリ実習で笑気麻酔を体験した時、魂が肉体を遊離し宇宙を飛び回る感覚に魅了され、卒業後は麻酔科を選択しました。2008年から現在の病院に勤務していますが、今は産婦人科の手術麻酔と週3単位の健診を担当しています。当院の産科医療は帝王切開が中心で、硬膜外無痛分娩は提供できていません。赴任してから、術前経口飲水の採用、術後疼痛対策、超緊急帝王切開への体制づくり、新生児蘇生講習会の開催、立ち合い帝王切開の導入など、周産期医療スタッフと協力しながら行ってきました。

現在、日本の帝王切開率は約20%、5人に1人は帝王切開による分娩です。帝王切開は分娩様式の一つと言っても良いでしょう。しかし、帝王切開をマイナスイメージで捉える妊婦やご家族、医療スタッフが一部に存在します。最近、欧米を中心にGentle Cesarean Section(優しい帝王切開)という分娩様式が提唱されています。帝王切開でも経膈分娩に近い分娩環境を提供し、患者満足度を高めることを目標にしています。予定帝王切開が基本ですが、穏やかな手術室環境の提供、子宮切開後の児娩出を急がない(肺抱水のスクイーピングを促す)、臍帯の遅延結紮、出産直後の早期母児接触、家族の立ち合い、術中は透明ドレープを使用し出産の瞬間を見えるようにするなど、施設ごとに工夫がされています。ネット検索で多数ヒットします。

当院では、2008年から希望者を対象に立ち合い帝王切開を開始しました。パートナーの立ち合い、早期母児接触(カンガルーケアは経膈分娩含めて未施行)、出産直後の写真撮影、術後は硬膜外鎮痛で早期離床を図り、児のケアに専念できる環境づくりを目指しています。現在、当院で行われる帝王切開の約半数が立ち合いで行われています。帝王切開は手術の一つですから、清潔野の確保や患者への配慮が必要です。手術中は、麻酔科の立場で、手術経過、啼泣の大切さ、分娩は女性にとって大仕事であることなどを説明し、妊婦やパートナーの不安を取り除くように心がけています。当院では外国人留学生の帝王切開も多く、その時は、つたない英語で意思伝達を図ります。無事に出産し、川の子で写真を撮る時の夫婦の笑顔を見ていると、産科医療に関与できることを嬉しく思います。本来のGentle Cesarean Sectionには、ほど遠い状況ですが、「当院で帝王切開を受けて良かったです」と言われることを目標に、もう少し頑張れるかなと考えています。